

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2799100066		
法人名	株式会社カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島Ⅱ		
所在地	大阪市淀川区加島4丁目2番30号		
自己評価作成日	平成25年5月27日	評価結果市町村受理日	平成25年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年6月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が常勤しており、健康面・医療面などで細かな支援 速やかな対応ができる(早期受診や検査判断) またカンファレンスなどにも看護師参加のため医療面の角度からも議論できる</li> <li>・開所し3年たち、町会の一員として防災訓練に参加したり入居者の方と顔なじみになってきている。逆に町内のお祭ときは男性職員が手伝いに行く予定など地域とつながりながら暮らしている。</li> <li>・見学者や外部の方から「綺麗なホーム」との声多い。玄関 共用部が広く常に清潔を意識し整理整頓をしている</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>開所後からの取組みが実を結び、地域住民との自然な交流が出来る段階までになって来ている。近所に迷惑をかけるような場合でも、町会の方に相談し協力が得られ解決出来るようになってきている。多くの家族が2ヶ月に1回開催の運営推進会議に参加して、地域代表とも意見交換を行い、夫々の立場で事業所の運営に協力している。介護上の様々な課題について、職員、家族、地域にオープンにして、関係者で意見を出し合って、皆で解決していく運営姿勢が当事業所の特徴である。建物の外観や、ゆとりある内部空間のように、事業所運営の中身についても、風通しの良さを感じる。日常生活でも、誕生会、壁紙作成、お茶会、お菓子作り、お花の会、大正琴ボランティア、買物、書道の会、漬物作りなど、利用者の楽しみ、生き甲斐づくりに工夫している事業所である。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく場所に掲げ会議やカンファレンスなどで迷ったときなどは振り返るようにしている。	「今までの暮らしが この地域で 普通に過ごせる そんなグループホーム」を新しく理念に掲げ、玄関に掲示している。職員で考えた「理念」を自らが実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の理髪店に出向く、公園を一緒に掃除する防災訓練、町内運動会など上辻町会の一員として参加し利用者と同様にならなっている方もいる。	散歩や買物、北公園清掃の手伝い等、事業所と地域、利用者住民、職員と町内会がよく普通に付き合っている関係が、出来つつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所力として一緒にイベント参加にとどまり貢献まではできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	24年度の平均家族参加人数→10人花見や行事に対する家族の意見や事故の事例を挙げ意見交換など行なっている。	運営推進会議に家族の多くが熱心に参加して、事業所のスタッフと一緒に、地域の代表者や地域包括支援センターと、意見交換をして、地域交流を前進させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内に4事業所があり代表で担当者が問い合わせしていることもある。	利用者個別の具体的課題等について行政サイドに報告し相談するコミュニケーションのパイプが構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	アンケート形式で日々の業務内を振り返るなど実施。立ち上がる能力のある方に「座って下さい」など言い方はソフトでも行動制限になることなど確認をできるようにしている	職員は身体拘束防止の基本的知識を習熟している。さらに日常の様々な事例について、職員が協力して「この場合はどうなのか？」といった振り返りを、仕組みの中で行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	話し合う場にて ①通報義務のシールについての説明 ②日々の声かけなど振り返る ③セミナー参加したスタッフからの報告会などの実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な知識とは言えない、活用までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改正時 十分な説明をしている。 改正時には法人で統一した書面にて理解を図るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望や意見を伺うための書式を活用している。来館が少ない家族には郵送したり伺う意識をしている	事業所の行事や運営に関する家族参加の意識が高く、介護の事例や課題について家族全体にも投げかけて、家族の意見や要望を聞くという、家族と事業所の信頼関係が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者と事業所職員での食事会 ・事業所職員間での食事会 ・職員会議で意見が出やすいようアンケート作成など聞く機会を設ける努力をしている。	職員の意見や提案が出し易い、言い易いように、普段からのチームワーク作り、会議体の運営方法、福利厚生への配慮が管理者をキーマンにして取組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の意見を聞く機会が定期的であり、職員に対しては法人内で人事考課の項目の見直しや改善に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内研修(研修担当管理者が年間計画を立案) ・各事業所で法人外研修・勉強会など実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内での施設間交流研修 ・法人外事業所と職員交換研修 ・同業者が集まる意見会(交流会)への参加の実現		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にセンター方式シートの記入をご家族へ依頼。まずできることから安心につながることを意識し努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能であれば無理のない程度に来館していただき一緒に考え話し合っていくようにしている。 (来館が厳しいご家族のはアンケート用紙など配布している)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずご本人・ご家族の希望に添うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家でみんな一緒に住んでいるイメージを大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・カンファレンス参加の呼びかけ ・居室担当制(担当スタッフの紹介にて日々の様子や困っていることなど話せるようにしている)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	限られた方しか場所など支援できていない以前から通っていた理美容などはできる限り行くよう検討している	出来るだけ入所する前からの馴染みの場所、馴染みの人、馴染みの店などを利用者個々に把握して、関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席を工夫したり、カラオケ会の誘いや保育交流など把握した上で関わりあえるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葉書でご様子を伺い連絡を頂いたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・カンファレンスでの検討 ・居室担当が中心となり希望、意向の把握をしている	利用者ごとに担当スタッフを決めて、利用者の思い、家族の意向を聞き、一方ではカンファレンスで他の職員の意見聞き、利用者の意向の沿ったケアが出来るように努めている。	症状が進行して、本人の意向の把握が困難になる場合に備えて、本人の昔の生活歴のエピソードなどを蓄積しては如何。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式にての情報 ・ご家族 カンファレンス参加協力にて入居以前の生活を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ずっと車椅子で座ってばかりになっていないか？疲れないか？など把握している(カンファレンスにて検討している)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスと各担当職員が状態変化やケアで問題があった場合 すぐカンファレンスなど開催する体制にしている。(ご家族への希望など記入していただく用紙を郵送している)	利用者を担当する職員が健康状態や直近の状態を報告し、他の職員が意見を出し合っ て、サービスの内容を検討して、介護支援計画書の見直しにつなげている。家族の希望は文書や電話・口頭で聞き取り、計画書の内容に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化や気づきなど介護記録に記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や困っていることを伺い その方に合った対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の方 民生委員に定期的に地域での催し物など伺い また知らせてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医・ご家族・事業所と面談を実施し希望や意向を伺い納得した医療を受けられる支援をしている。	利用者の健康状態については、かかりつけ医、家族、事業所(スタッフ)の意思疎通を良くして、医療支援に取り組むようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており常に相談ができる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が常勤のため病院関係者と連絡が取りやすい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医とご家族・事業所で面談をし希望や意向を伺っている。 看護師が常勤しているためできることの説明なども行っている	事業所としてターミナルにも対応する体制にあり、経験もある。出来るだけ早い段階に、家族の意向を確認し、必要に応じてかかりつけ医の意見を聞き、家族と対応方法について話し合っ、重度化や終末期への支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的でないが行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練・点検の実施地域の防災訓練に町会の方と参加している	地域の防災訓練にも事業所として参加し、災害時の地域からの協力体制作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフ自己評価では努力している・敬語は上手く使えないときもあるも傾聴を心掛けている・馴れ馴れしくならないよう気にしている・など好ましくない対応やご家族から意見あれば指導している	職員も常日頃から、利用者への対応について気をつけているが、家族から見たら修正が必要な場合には、家族の率直な意見を聞き、前向きに改善していく取組みが見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員が意識し思いや希望を引き出すようにしている。「買い物に行きたい」「外で食事したい」「コーヒーはいいのが飲みたい」など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日入居者全員の希望どおりのペースには現実至ってない。「買い物に行きたい」と希望される→当日は欠勤などで実行できなければ「明日」や可能な日を伝え行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洒落な入居者が目立ち ヘアカラーやパーマカットを希望される方は、美容院に行っている。また、好きな色や服の傾向を家族からも伺い購入したり持参いただいたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米飯よりパンの方が好まれる方はパン食、洋食好きなど把握している。 食事の片付けは限られた方しかできていない	食事の準備や片付けには、出来るだけ残存能力を発揮してもらうように促している。食事内容についても家族に紹介しているが、食事に関する家族の評価は高い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師が管理し(体重含め)担当スタッフと連携している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを活かしてトイレ誘導としている。 希望 訴える力が残っておられる方が多い。	個々の排泄パターンを記録から読み取って、事前のトイレ誘導をすることで、自立した排泄習慣が続くことをポイントにして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・看護師が常勤のため相談コントロールしている ・牛乳、ヨーグルトなど個々で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかには事業所で決めた曜日になっている。 曜日固定にしない検討も実践している 午前・午後などの希望はできるだけ希望に添っている	あらかじめ予定した日に入浴を行っているが、体調の変化や拒否がある場合は、日を変えるなどして対応している。本人の希望に沿った入浴支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間をもうけたり車椅子に座りっぱなしにならないよう また年齢や状態に合わせた休息の取り方をしている。気持ちよく眠れるよう馴染みの布団・枕などご家族にも協力していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用までの理解はできていない 看護師が身近にいたので薬のことや錠剤・粉砕など支援の方法や症状の変化など都度相談できる環境である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を通じて洗濯たたみ・新聞をとり各階へ・献立書きなどケアプランに導入している。本格的なコーヒーを飲む機会や漬物を漬ける担当など働きかけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	全員の希望にその日が添えない日もある。 週間的に買い物や理美容など希望に添えるようしている。またご家族の協力を得て定期的に外出もしている。	外の空気に触れる機会を作るように努めている。散歩だけで十分でない場合は、買物や美容院へ出かけたり、かぐはし神社の秋祭りなどの地域行事へも出来るだけ参加するようにしている。家族の協力を得て外出をお願いする場合もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月々買い物などで使用できる金額は家族と話し合い決め事業所で管理している。中には希望にて個人でお金をもっておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	限られた方にしかできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設感が出ないよう普通の暮らしを意識している。 他の事業所研修で昭和を意識した空間づくりを見たスタッフの意見など検討している	玄関前の広場(駐車場)を含めて、全体的に空間に余裕のあるレイアウトとなっている。内部は清掃が行届き清潔である。家庭的な落ち着いた雰囲気を出すために、季節の花や、利用者の作品が飾られ、心が和む。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内を自由に(1F⇔2F)過ごされている。工夫し本棚やソファなど設置するも現実皆さんリビングや玄関のソファにおられることが多い		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力で自宅に近い環境にしている。(好みのもの 使い慣れた家具)	居室は清潔である。家から馴染みの家具や品々や、さらには趣味のグッズに囲まれた部屋もあり、家族と協力しながら落ち着いて過ごせる部屋作りに努めている様子が伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にしているが、居場所の工夫をするも現実利用が薄い		